

学生支援に関する調査 分析結果

学習支援センター IR 推進室

平成 29 年 4 月 21 日

概要

本資料は、学習支援センターIR 推進室が実施した「学生支援に関する調査」の回答内容を分析したものである。この調査は、学生支援に対する意識や実態に関する情報を集約し、本センターが開いている「学習相談窓口」やオフィス・アワー制度等の学生支援の体制を改善・強化を図ることを目的として、教職員を対象に実施した。

調査結果から、学生の個別相談に応じる回数は、教員・事務職員とも個人差が大きいことが分かった。また、“自分が基準とする相談回数”も個人差が見られた。このことから、本学全体の学生支援をより効果的に行うため、教員と事務職員の意識の共有と協力・連携が必要と考えられる。

さらに、オフィス・アワー制度の利用状況に関して、学生の個別相談が事前に提示した時間帯に行われる率が全体的に低く、今後、利用率が高い教員に工夫点や状況をヒアリングして共有することや、学生への周知方法を工夫する等、相談体制全体の中でのオフィス・アワーの位置づけを行い、制度をさらに整える必要がある。

学生支援の課題や今後の対応策に関しても、改善・整備すべき事項について具体的な提案が多数寄せられた。

本調査で得られた現状や今後の対応策を活かし、今後の学生支援の改善・強化を進める必要がある。

調査方法

今回の調査は、平成 29 年 1 月 26 日から 2 月 28 日にかけて、4 学部の教員と事務職員を対象に実施した。回答数は、表 1 の通りである（「経営学部」は調査時の学部名、現在は「総合経営学部」）。

表 1 各学部と事務局の回答数

経営学部	社会学部	ソフトウェア 情報学部	薬学部	事務局	合計
14 名	12 名	10 名	22 名	11 名	69 名

所属教職員数に対する回答割合は、経営学部：77.78%、社会学部：57.14%、ソフトウェア情報学部：66.67%、薬学部：75.86%、事務局：30.56%であった。教員に関しては学部ごとの違いはあるものの半数以上から回答が寄せられた一方、事務局の割合は 3 割程度に留まった。

調査用紙を、本資料の最後に付ける。調査内容は、直近 1 年間における学生の相談への対応回数・内容に関する四つの設問と、本学の学生支援に対する課題や今後の対応策を記述する項目に分かれている。前者の設問は、学生からの個別相談を受ける回数（概数）、その相談回数に対する印象、個別相談のうち

オフィス・アワーを利用する率（教員のみ）、及び相談の内容ごとの頻度を、「大学における学習に関する相談」、「教育課程外の活動に関する相談」、「その他、学生生活等に関する相談」の三つに分類して合わせて20項目で尋ねるものから構成している。

調査結果と分析

設問 A(1)「相談を受ける機会がありますか」に対する回答の割合を、図1に示す。

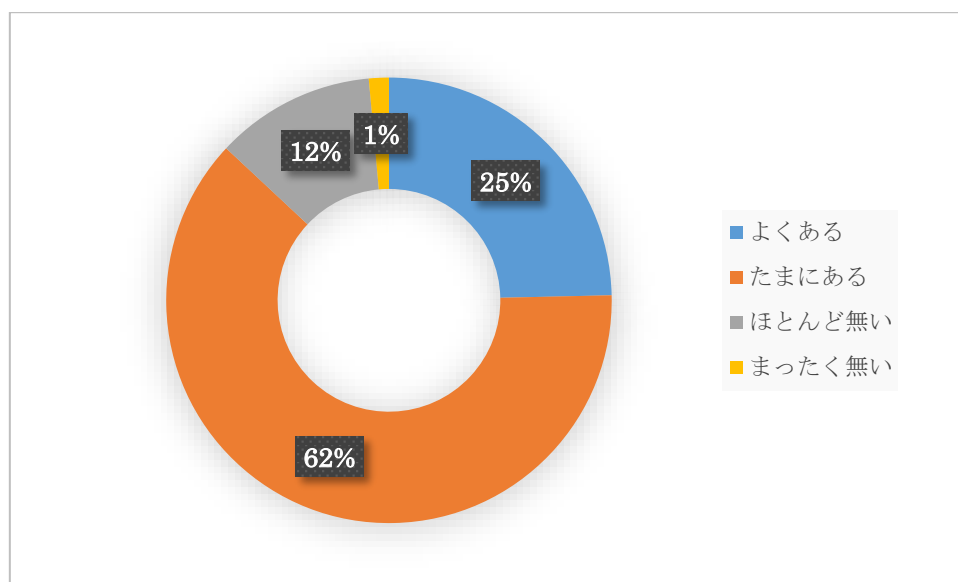


図1 「相談を受ける機会がありますか」に対する回答割合

全体では、およそ4人に1人が「よくある」と回答している。また、「たまにある」が6割程度ともっとも割合が大きい。「まったく無い」は事務局の方（1名）の回答で、ふだんの業務で学生と接する機会が少ないためと考えられる。

設問 A(2)「相談を受ける回数ほどの程度でしょうか」では、A(1)で「まったく無い」以外の回答をされた方に、月単位でもっとも多かったときともっとも少なかったときの概数を尋ねている。全体では、「もっとも多かった月」の回答の範囲が1～100回、「もっとも少なかった月」の回答の範囲が0～40回であった。これを教員と事務職員に分けると、「もっとも多かった月」の回答範囲が教員では1～60回、事務職員では2～100回であり、「もっとも少なかった月」の回答範囲は教員が0～40回、事務職員は1～20回であった。それぞれの平均、中央値、及び標準偏差を、表2に示す。

表2 A(2)の回答に関する平均と標準偏差

	「もっとも多い月」		「もっとも少ない月」	
	教員	事務職員	教員	事務職員
平均	10.15	23.50	3.18	7.63
中央値	5	7.5	1	4
標準偏差	12.86	34.13	6.85	8.21

これらの値より、いずれも標準偏差が大きく、回答ごとのばらつきが大きいことが分かる。「もっとも多い月」の事務職員の回答の散らばりがとくに目立つが、上述のように、事務職員では回数が多いのは窓口業務など学生と接する機会が多い場合であり、普段の業務での学生対応の延長で個別の相談を受ける機会が生じるものと思われる。

また、A(2)の相談の回数を、A(1)の回答ごとに分け、相談回数に対する印象と実際の回数の関係を調べた。なお、回答から事務職員は業務内容が相談回数に影響していると考えられることから、この関係については教員からの回答のみを対象とした。まとめた結果を、表3に示す。

表3 設問A(1)の回答（教員）ごとの相談回数の範囲

A(1)の回答	「もっとも多い月」		「もっとも少ない月」	
	最大	最小	最大	最小
よくある	60回	4回	30回	0回
たまにある	50回	1回	10回	0回
ほとんど無い	8回	1回	2回	0回

設問 A(1)の回答が同じでも、実際に相談を受けている回数は大きく異なる。すなわち、教員によって“自分が基準とする相談回数”に違いがあることが分かる。ちなみに、一か月の平日を20日とすると、平均して日に一度の相談を受けると20回となる。この数値を用いて「もっとも多い月」の回答を分析してみると、A(1)で「よくある」と回答した中で、20回以上のものが8件、20回未満が6件となる。同じ条件でA(1)の「たまにある」の回答を見てみると、20回以上のものが3件、20回未満が33件である。このように、回答全体としてはA(1)とA(2)に相関があるものの、それぞれの教員の印象と実態の間には、個人差が見られる。

次に、設問 A(3)「A(2)のうち、事前に提示しているオフィス・アワーの時間帯に行っているのは、どの程度でしょうか」に対する回答を、図2に示す。

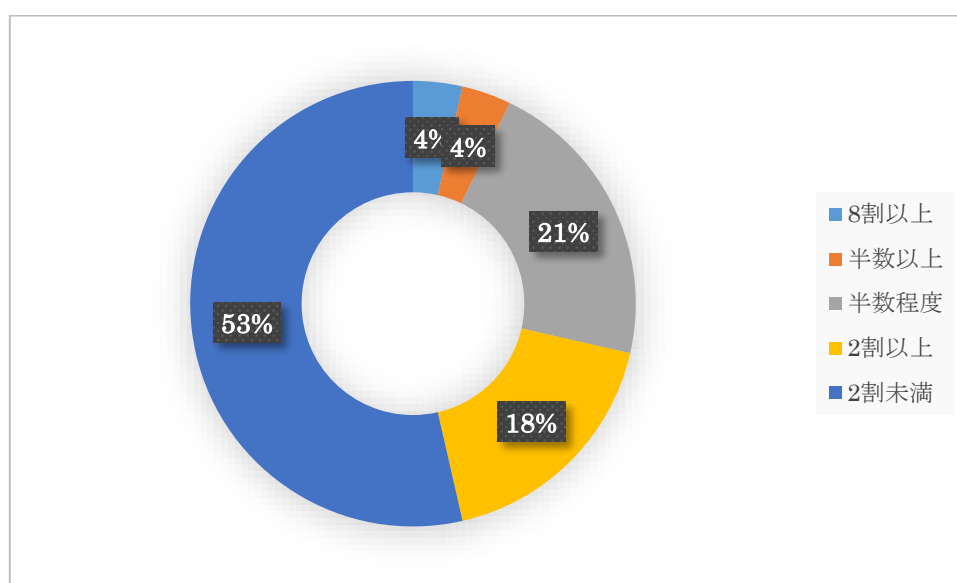


図2 個別の学生相談のオフィス・アワーでの実施率

「半数以上」と「半数程度」の境界が分かりづらいものの、オフィス・アワーに行われる率が「半数程度」以下である割合が9割にも上ることや、「2割未満」の回答が半数程度あったことから、全体的に制度の活動度は低いことが分かった。

設問 A(4)では、学生の個別相談の内容を、20の選択肢から当てはまるものに、「◎：よくあるもの」、「○：数回に一度程度あるもの」、「△：1ないし数回あったもの」のいずれかを記入してもらった。全回答（69件）のうち、選択された数が多かったものを以下に示す。

1. 授業の内容についての質問（不明点など）	49名
2. 履修状況に関する指導・相談（欠席がちの際の対応など）	41名
2. 就職活動や卒業後の進路などについての相談	41名
4. 履修手続き（登録・取消しなど）に関する相談	39名
5. 担当科目の学習指導（授業時間外の指導）	38名
6. 学習環境に関する相談（学習の場所、空調、情報機器の使用など）	33名

これらを見ると、授業の履修や内容に関する相談や、学習環境についての相談が多いことが分かる。この他では「留学についての相談」が5名と少ないものの、用意したほとんどの項目で10名以上の回答があり、相談が幅広い内容で行われていることが分かる。20の項目については、この資料の最後の調査用紙を参照していただきたい。

続いて、同じ設問に関して、「◎：3ポイント」、「○：2ポイント」、「△：1ポイント」と加重して足し合わせた。ポイントの合計が大きいものを以下に示す。

1. 授業の内容についての質問（不明点など）	113ポイント
2. 就職活動や卒業後の進路などについての相談	92ポイント
3. 担当科目の学習指導（授業時間外の指導）	89ポイント
4. 履修状況に関する指導・相談（欠席がちの際の対応など）	86ポイント
5. 履修手続き（登録・取消しなど）に関する相談	70ポイント
6. 他の学生との関係についての相談	59ポイント

上の順位と比べると、それぞれ上位五つまでは（それぞれの順位は異なるが、）内容が共通であり、これらは相談に応じる教員・事務職員の人数と相談内容のどちらも多いことが分かる。また、ポイントが6位の「他の学生との関係についての相談」は、相談を受ける教員・事務職員数に対するポイントが1.97と高く、他の内容と比べて、特定の教員・事務職員に相談が寄せられているか、同じ学生が複数回相談していることが分かる。

設問 Bでは、学生支援に対する課題や今後の対応策を尋ね、全69回答のうち59名の方から意見が寄せられた。「現状維持で良い」や「すでに行き届きすぎて、一部の学生は頼ってしまっている」という意

見が複数あった一方で、次のような課題や対応策も出された。なお、中には既に着手しているものもある。

- 全学的な学生相談の在り方の改善・整備
 - ◇ 学習に熱心な学生とそうでない学生がおり、双方に対するサポートが必要
 - ◇ 教員・事務職員から学生に働きかけるしくみ作り
 - ◇ 教員と事務職員の協働促進のための役割分担や情報の蓄積・共有体制の整備
 - ◇ 学生の相談や指導に関する情報を教職員間で共有する手段の整備（計画・遂行中）
 - ◇ 外部カウンセリングの活用促進
 - ◇ 孤立しがちな編入生や留年生の支援
 - ◇ 保護者に学生支援の情報を伝え、安心していただく
- 課題や障害を抱えた学生に関する教員・事務職員間での情報共有（着手、整備中）
 - ◇ 疾患の内容や様々な状況（発達障害、精神疾患、メンタル面の悩み、引っ込み思案）への対応
- 学習支援センターの機能強化
 - ◇ 組織の拡充、教職の役割分担と協働体制
 - ◇ リメディアル教育、生涯教育、資格取得支援への取組み
 - ◇ 学内外への活動内容や利用方法等の周知体制の強化
- 学生参画の推進
 - ◇ 学生支援の整備に、学生にもいっしょに参加してもらう
 - ◇ 目安箱方式での意見収集
- 学修及び学生生活を送る環境の充実
 - ◇ 学習スペース、ネットワーク環境、資料など
 - ◇ 資格取得など、同じ目的を持つ学生達が集まる環境づくり
 - ◇ 食事を摂る環境、売店の充実
 - ◇ 気軽に学生同士や教員・事務職員と学生が話れる場所づくり
- その他
 - ◇ 学生の普段の生活（態度やマナーなど）を整えていけば、自然と学習に関心が向いていくのではないかと。

「学生支援に関する調査」

学習支援センターでは、今後の本学の学生支援体制の充実のため、現在の状況を把握したいと考えております。直近の1年間(平成28年1月～)について、以下の質問AとBにご回答くださいますよう、よろしくお願いいたします。

ご不明な点などがありましたら、担当(坂井、sakai@aomori-u.ac.jp)までお問い合わせください。

ご所属： ・経営学部 ・社会学部 ・ソフトウェア情報学部 ・薬学部 ・事務局

お名前： _____

A. 個別の学生に対する相談に関して、回数や内容をお書きください。

(1) 相談を受ける機会がありますか。以下の中から一つお選びください。

・よくある ・たまにある ・ほとんど無い ・まったく無い

(2) (1)で「まったく無い」以外と回答された場合) 相談を受ける回数はどの程度でしょうか。もっとも多きときの回数(概数)と、もっとも少なきときの回数(概数)を、月単位でお書きください。

もっとも多きとき： _____回程度/ひと月

もっとも少なきとき： _____回程度・ひと月

(3) (教員のみ) (2)のうち、事前に提示している「オフィス・アワー」の時間帯に行っているのは、どの程度でしょうか。以下の中から一つを選んでください。

・8割以上 ・半数～8割未満 ・半数程度 ・2割～半数 ・2割未満

(4) 相談のあった内容を、次の(ア)から(オ)の中からお選びください(複数回答可)。対応する空欄の中に、◎：よくあるもの、○：数回に一回程度あるもの、△：1ないし数回あったもののいずれかの記号をお書きください。

大学における学習に関する相談

<input type="checkbox"/>	(ア) 授業の内容についての質問(不明点など)
<input type="checkbox"/>	(イ) 担当科目の学習指導(授業時間外の指導)
<input type="checkbox"/>	(ウ) 履修手続き(登録・取消しなど)に関する相談
<input type="checkbox"/>	(エ) 履修状況に関する指導・相談(欠席がちの際の対応など)
<input type="checkbox"/>	(オ) 学習環境に関する相談(学習の場所、空調、情報機器の使用など)

- | | |
|--|---------------------|
| | (カ) 資格取得についての相談 |
| | (キ) ボランティア活動についての相談 |
| | (ク) 留学についての相談 |
| | (ケ) インターンシップについての相談 |

教育課程外の活動に関する相談

- | | |
|--|----------------------------------|
| | (コ) 部・サークル活動についての相談 |
| | (サ) 就職活動や卒業後の進路などについての相談 |
| | (シ) (上記以外の) 学生の学内外の自主的な活動についての相談 |

その他、学生生活等に関する相談

- | | |
|--|------------------------|
| | (ス) アルバイトについての相談 |
| | (セ) 学費・奨学金についての相談 |
| | (ソ) 生活費など、普段の生活についての相談 |
| | (タ) 他の学生との関係についての相談 |
| | (チ) 教員・職員との関係についての相談 |
| | (ツ) 家庭の事情についての相談 |
| | (テ) 抱えている障害についての相談 |
| | (ト) その他： _____ |

- B. 本学の学生支援に対して、課題と思われる点や今後の対応策についてのご意見がありましたら、お書きください。

ご協力、ありがとうございます。